



【新学長就任】

長友恒人新学長が語る

# 奈良教育大学のこれから

特 集

〈体験型公開講座〉

学ぶ!遊ぶ! ならやまオープンセミナー体験報告

ぶらり散策インタビュー ～奈良国立博物館

記念すべき第60回輝夢祭



奈良教育大学  
イメージキャラクター  
「なっぎょん」

秋  
2009



## 奈良の地で ― 学び 創造、学び 発信。

本学は、創立以来一貫して、地域の教員養成に責任と役割を果たしてきました。本学の教育は、リベラルアーツの流れを汲む学芸と不可分に結びつき、そのことが質の高い教育者を生み出す原動力となっています。

本学は、目的として「学芸の理論とその応用とを教授研究し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図る」(学則) ことを掲げており、社会の変化や科学の進歩などに常に興味・関心を持ち続け、それぞれの置かれた持ち場で学び続ける教育者を養成する使命が我々にあります。

大学における教員養成は、紆余曲折を経ながらも時代とともに変化し進化しますが、「教育」は本来、ロマンに満ちた価値ある営みです。小規模大学という恵まれた教育環境を最大限に生かしつつ、“奈良”に基礎を置き、国際的に通用する「卓越した教師教育」の拠点大学を目指していきます。

平成21年10月

国立大学法人  
奈良教育大学長

長友 恒人

〈プロフィール〉  
ながとも つねと  
昭和18年生まれ。工学博士。  
京都大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学

昭和48年 助手として本学に赴任、  
平成3年 教育学部教授に。  
副学長などを歴任し、平成21年 名誉教授。  
専門は、物理学、文化財科学。  
趣味は、「種子から育てるミニ園芸」



### 3 【学長コラム】

#### 学長就任にあたって

学長 長友 恒人

### 4 長友恒人新学長が語る 奈良教育大学のこれから

### 6 ぶらり散策インタビュー ～奈良国立博物館～

学芸部長 西山 厚

### 8 学ぶ！楽しむ！ならやまオープンセミナー体験報告

企画・広報室

### 10 広がる海外連携協定校！新たに2大学と締結

### 11 本学の国際交流協定の現状と展望

副学長(国際交流・地域連携担当) 加藤 久雄

#### 教員免許状更新講習前半を終えて

特任講師(更新講習担当) 西川 雅信

### 12 【ラボ・レター】

#### スポーツ医学に強い教員の養成を

保健体育講座 准教授 笠次 良爾

#### 英語学習の意義を考え、習得のプロセスを学ぶ

英語教育講座 准教授 佐藤臨太郎

### 13 【ひと・あれ・これ】

#### 若葉マークがとれました

奈良市立東登美ヶ丘小学校 橋本 桂子

#### 信頼から感動へ

株式会社オージススポーツ 杉本 和則

### 14 【留学生レポート】

#### 日本から一步外へ

学校教育教員養成課程 言語・社会コース 4回生 山地 心

#### 初体験！日本の生活

研究生(西安外国語大学) 孙 文俏

### 15 【課外活動】

#### 後悔だけはしない

男子ソフトボール部 主将 小島 和人

#### 意志が舞台を創る

舞台工房KATE 部長 神木 千聡

### 16 【附属校園では】

#### 幼稚園 インフルエンザ流行に対処して

附属幼稚園 養護教諭 清水智佳子

#### 小学校 「たかまどの会」の活動 ～学校教育への理解と支えを自然な形で～

附属小学校 主幹教諭 中村 幸成

#### 中学校 未来を創るのはわたしたち ～2009ユネスコ東アジア子ども芸術祭イン奈良の活動から～

附属中学校 教諭 小嶋祐侘郎

### 18 記念すべき第60回輝薨祭

#### 活躍する奈良教育大生

大学祭実行委員会 綱 真奈美

### 20 【大学の仲間たち】

#### ヒメウラナミジャノメ

自然環境教育センター長 前田喜四雄

ならやま  
2009年秋号

## CONTENTS

〈表紙題字〉

名誉教授 池田桂鳳

### 表紙紹介

#### 輝薨祭

今年も大学祭の季節がやってきました。

本学の大学祭は「輝薨祭(きほうさい)」の名で、学生をはじめ学内関係者に広く知られています。

ところで、この「輝薨」という言葉。少し変わった名前だと思いませんか。実は、大学祭が始まった当初からあったわけではありませんでした。昭和50年、「大学祭に名前をつけよう」という声が上がリ、学内でネーミングを募ったところ、本学の学歌の一節「輝く薨に…」に由来したこの言葉に、「きほう＝希望」という響きも良いため決まったとのこと。

毎年、運営には「大学祭実行委員会」の学生が主体となり、その準備に当たっています。開催直前には、泊り込んで作業に当たることもあるそうです。

今年は、10月30日(金)から11月1日(日)の3日間、学内において開催されます。ぜひ皆さんも足を運んで、輝薨祭を楽しんでください。

企画・広報室





## 本学の特徴を生かした教育

全国に11の単科の国立教員養成大学がありますが、本学は中でも規模が小さい大学です。小規模大学のメリットは、学生と教員との距離が近い、「少人数教育」ができるということ。本学では、対話形式を重視した学生参加型の授業、懇切丁寧な研究室ゼミや卒業論文指導を展開しています。その利点を生かして、「奈良」に基礎を置いた上で、「個性」と「特色」を生かした大学改革をさらに進め、全国の教員養成拠点大学のひとつと言われるように努力していくつもりです。

## 運営費交付金の削減が続く

### 状況下での大学運営

法人化後5年半を経過して、第一期中期目標期間も半年を残すだけとなりましたが、運営費交付金の継続的な1%削減をはじめとして、国立大学法人は経営的に極めて厳しい状況に置かれています。分けても教員養成系大学は、早いテンポで変化する教員養成政策と相まって、どの大学も悪戦苦闘しているというのが実状です。その中であって本学は、経営の効率化を推進するとともに、文部科学省から各種の教育改革支援事業をはじめ多くの競争的資金を獲得し、他大学に比べても群を抜いて、教育改革・改善を推進してきた実績があります。

その一つとして、教員養成教育のさらなる質的向上を目指した、「新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク（Cuffet・Curriculum Framework for Expert Teachers）」の取り組みがあります。Cuffetは、学生が教師として身につけるべき資質の保証を目的に教育課程を構造化し、その教育において大学教員は教員養成の目標を共有する一方で、専門職としての教員の養成に必要な知識・能力・技能・態度等を明確に示し、学生は卒業までに獲得すべき新任教員に求められる資質能力目標に照らして、各授業科目から何を学び、どのような資質能力を身につけたかを自覚しつつ、教育実践力を備えた教員として育つことを目指す仕組みです。

## 地域と連携した先導的取組（理数科教員養成プログラム）を他の分野へも拡大

教育研究面では、全国の先導的取り組みとして、「理数離れ」に対応した「理数科教員養成プログラム」を、県内各地・学校との連携による、実践的で専門性に優れたキャリア教育を充実させています。今年2月には、その拠点として新たに「理数教育研究センター」を設置しました。このセンターは、広く学外の方も利用できる科学実験機器を備えた「オープン・サイエンス・ラボ」を併設するなど、地域に密着して理

数科教育の内容を深め、方法を改善する研究を進めています。これを典型として、他の教科へも拡大していきたいと考えています。

法人化後、奈良県・奈良市教育委員会とはもとより、近隣市町村などとも連携を拡大・強化してきました。学校現場と協同する取り組みは、学生の実践的指導力を高める上で大変重要なことであり、大学としても教育研究の成果を、「支援」という形で還元していくことを進めています。

## 「奈良の世界遺産・文化財」を活用した教育

本学は平成19年7月に、日本の大学として初めて、ユネスコ・スクール（ユネスコ協同学校）に加盟しました。また附属中学校も、全国ユネスコ・スクールネットワークの拠点校の一つになっています。「世界遺産教育」をキーワードに、世界遺産の保全・保護に関する環境

教育及び文化教育を進めています。これらは、本学の文化財分野における、50年近い教育研究の歴史の延長上にあるものと捉えることができるでしょう。

また昨年10月、これまでその実態が不明とされてきた、新薬師寺の金堂と推定される大

## 長友恒人新学長が語る

# 奈良教育大学これから

平成21年10月1日、第11代奈良教育大学長として、長友恒人名誉教授が就任されました。長友新学長に、本学の教育についての抱負と展望について語っていただきました。

型基壇建物の遺構が本学構内で検出され、全国の話題を集めました。全面調査は資金面からも厳しい状況ではありますが、本学の財産・文化遺産として、保存を基本に教育への活用などを検討しています。

世界遺産や文化財の研究成果を、「奈良」の特色ある教材として学校教育の中に取り入れていく開発的研究と実践、これも本学の個性・特色の一つとして生かしていきたいものです。

## 大学院における修士課程と専門職学位課程の役割と融合、学部教育との接続

大学院においては、奈良県教育委員会等のご理解とご協力のもと、平成20年4月に「教職大学院（専門職学位課程）」を開設し、プロ

フェッショナルスクールタイプの高度実践型教員養成をスタートすることができました。今後、研究を主とした修士課程と、教職実践を主とした教職大学院との区別化を図りつつ、理論と実践の往還として総合化を図るとともに、学部教育との接続についても具体的に検討し、教育の高度化・専門職化をさらに進めていきたいと考えています。

## 第二期中期目標期間を迎えるに当たり

来年4月からは、新たな中期目標期間としての6年間、第二期を迎えることになります。大きな目標として、教員養成の高度化と専門職化が検討課題になりますが、忘れてはならないこととして、新しい課題に挑戦するだけでなく、第一期中期目標期間中に始めた内容を実質化していくことが挙げられます。別の言い方をしますと、これまで本学が取り組んできた課題によって、進展段階の違いはありますが、イメージレベルから具体的な実行レベル、総括を通して新しい発展的段階へと進めることが重要だと考えています。全学構成員の共通認識を形成しつつ、本学としての教員養成改革に努めていきたいと思っています。

## 目指すべき教師は

教員養成大学のカリキュラムは、大きく「教養教育」「教科教育」「教職教育」の3つにより構成されています。これらが、頭の中でバランス良く融合された教師を育成することが重要

だと考えています。学校現場における教育課題は、社会状況も相まって複雑化し、多様化しています。学校で何か問題が起こった場合、教師一人では対応できない場面が多くなっています。その時に重要なことは、校長先生や同僚との相談など、必要なコミュニケーションができる力が求められます。つまり、教師の一人として、協調性・社会性を持つて行動できる教師、常識を持ち、精神的にも肉体的にもタフで、忍耐力を持った市民であることが必要と言えます。

## 教師を目指す高校生や

### 読者の皆さんへのメッセージ

まず、「教師になりたい」という希望や意欲を大切にしたいと思っています。理数科の教師になりたい方なら、先導的な取り組みをしている本学にぜひ来て欲しいものです。また、幅広い教養に裏打ちされた教師、例えば歴史の授業の中でも、その時代の理科的・文化的な背景も念頭に置いて指導できるような、そんな教師になりたい方も本学に来て、幅広く学んでください。

社会教育・生涯教育を目指す方も大歓迎です。本学には、教員免許取得を義務づけない、総合教育課程があります。例えば、理学部や文



学部の専門性とはひと味違う、学際的な専門性を持つ人材育成の教育を目指しています。ここで学んだ学生たちは、卒業後に幅広い分野で活躍しています。

本学は、法人化後多くの外国の大学と交流協定を結んでいます。これからは、韓国や中国など東アジア地域の大学とともに、教員養成課題に協同して取り組んでいくなど、夢は大きく東アジアの拠点校を目指して、たとえ小粒であっても特色を持った、個性豊かなキラリと光る大学を目指していきたいと思っています。

最後になりますが、皆様方の積極的な協力をお願いするとともに、建設的なご意見を歓迎いたします。





奈良国立博物館 西新館



西山 厚 (にしやま あつし)

奈良国立博物館 学芸部長

京都大学大学院文学研究科博士課程修了  
大学時代は、仏教の歴史や思想を研究。  
「鎌倉仏教」「女性と仏教」など数多くの特別展  
を企画されている。



中村 恵

教育学部学校教育教員養成課程3回生  
奈良県立奈良高校出身  
学生広報スタッフ「なっきょん's CLUB」



# ぶらり散策 インタビュー

奈良国立博物館 Nara National Museum

奈良教育大学から北へ、東大寺へ向かうように15分ほど歩くと、奈良公園の落ち着いた雰囲気の中に溶け込むようにして重厚な建物が現れる。そこが奈良国立博物館だ。奈良国立博物館は「仏教美術」と「奈良」をテーマに調査研究そして展示活動をおこなっている。

本館と仏教美術資料研究センターの2つの建物は国の重要文化財に指定されており、本館では平常展としてさまざまな日本の仏像やその源流ともいうべきインド、中国、そして朝鮮半島の仏像がいつも展示されている。また、新館は特別展会場で、仏教美術をテーマにしたいろいろな特別展を開催することで知られるが、毎年秋には正倉院の宝物を展示する「正倉院展」が開かれ、全国各地、世界各国から多くの人が訪れることでも有名である。

今回は、今注目の仏像カール廣瀬郁実さんの著書「仏教の本」の監修をされ、また本学でも専門科目「正倉院の書跡」にて教壇に立たれている、奈良国立博物館学芸部長の西山厚さんを訪ねた。



修会もやりました。短い研修時間の中でいろいろな話をしてもたぶんあまり印象に残らないと思うので、大仏さまを中心に話をしています。大仏さまは頭の部分と体の部分の様子が違う。顔はつやつやしているのに、体にはつやがない。それは、造られた時期が違うからです。これは、数々の焼損などにより作り直されてきたからです。

子どもであっても大人であっても同じ内容の話をします。なぜ大仏は造られたのか。どういう思いがそこに込められているのか。「大事なことは、小さな子どもにも伝えなければなりません。『大事なことは』はわかりやすいので幼稚園児であっても理解してくれそうです。

奈良国立博物館は恵まれています。その信用で日本中からだけでなく海外からもテーマにあわせて数々のすばらしいものを拝借し展覧させていただくことができます。そういう職場で、そういう仕事をさせていただいて、素晴らしいものがあることを先に知ることができた。だからこそ、それを多くの人々に伝えていかねばなりません。それが私の使命だと考えています。

今年の正倉院展(10月24日～11月12日)で注目されている宝物は何ですか。

今年は、天皇陛下の御即位20年の記念すべき年なので、例年より3日間会期を延長して20日間開催します。また、宝物も例年より目玉になるものが多く充実しています。あまりにも充実しているので、関心のある方は疲れてしまうかもしれませんね(笑)

学芸員というと、展示と解説というイメージが浮かぶのですが、実際はどのような仕事内容なのでしょうか。

学芸員の仕事は、大きく4つに分かれます。

まず「調査研究」、そして「展示公開」「教育普及」、最後に「修理保存」です。

展示をするためには、それがどういうもので、どういう価値があるのかを明確に知る必要があります。そうでなければ展示ができないのですから、そのために調査研究がまず必要です。

でも展示公開しても見に来てくれた人になかなかわかってもらえない。

だからわかってもらう工夫が必要になります。それが「教育普及」です。わかりやすい解説をつけたら、音声ガイドを用意したり、展覧会の会期中に講座を開催したり。海外の博物館には日本のような詳しい解説はありません。日本人は解説をじっくり読んで、チラッと展示物を見る(笑)

日本には古いものがたくさんあります。1200年以上も前のものが発掘品ではなくて多く残っているのは世界中で日本だけです。日本人は古いものが好きで大事にする民族です。古い時代に造られたものは必ず修理されています。修理するのは、それが大事だからです。修理にかかるお金と労力は相当なものです。それでも修理する。そんなふうにいるいろいろな時代の人々に大切にされて今に伝わってきた。古いものは古いから大事なのではなくて、実は古いものほど出来がよいのです。私たちもまた次の時代にそれらのものを伝えていく必要があります。

私が一番楽しみにしているのは、光明皇后が書かれた『案教論』です。来年は、光明皇后が亡くなって1250年の年にあたります。関係のお寺では盛大な法要がなされます。おそらく今年から来年にかけて光明皇后ブームがくるでしょう。今年の正倉院展は、その出発点になるはずですよ。

正倉院宝物は、聖武天皇が大事にされていた物を、天皇が亡くなられたあとと光明皇后が大仏に献納したことからはじめます。天皇の遺品をすべて献納された皇后は、後にも先にも光明皇后しかいません。ではなぜそのようなことをしたのでしょうか。何か特別な理由があるに違いない。実は、御本人がその理由を記しておられるのです。それは、悲しみに耐えられなかったから。聖武天皇が大切にしておられたものには、ふたりの思い出がいっぱい詰まっていて、目に触れると心がぐずぐずしてしまうと光明皇后は書いておられます。だから、正倉院展で宝物を見るときには、ただ奈良時代のものだとか、きれいだとかだけじゃなくて、光明皇后が悲しみに耐えられなくて手放したものだという想いでみてほしい。すると宝物が違ってみえてきます。

奈良教育大学の学生にメッセージを

全国各地からせっかく奈良にやって来て4年間を過ごしても、奈良の本当の良さを知らずに学生生活を終える学生は多いと思います。教員になったならば、伝えなければならぬ奈良の素晴らしさをまったく知らずに終わってしま

**第61回 正倉院展**  
2009年 10/24(土)～11/12(木)

年に1度行われる、通常非公開の御物の特別展示。宝物には聖武天皇遺愛の品や、東大寺の法会に使用された法具など中国の珍器、ペルシャ、インドの工芸品なども含まれ、国際色、種類ともに豊富です。

**奈良国立博物館へのアクセス**  
【徒歩】近鉄奈良駅下車 登大路町を東へ徒歩約15分  
【バス】JR / 近鉄奈良駅より市内循環バス外回り「水室神社・国立博物館」バス下車すぐ

うのは、もったいないだけでなく、許しがたいことだと思います(笑)  
たとえ先生にならなかったとしても、それぞれの職場や友人、家庭などで、奈良がもっている本当の価値を伝えていってもらいたいし、伝えていくのに十分価値する価値が奈良にはあると思います。  
奈良教育大学も「キャンパスメンバーズ」という制度に加入してもらっているので、学生証を提示するだけで奈良国立博物館の平常展なら無料で、特別展も割引料金で見られるなど、たくさんの特典があります。奈良国立博物館にもっとも近い大学なのだから、もっと教育大生に足を運んでもらいたい。東大寺、春日大社、興福寺や新薬師寺など、お寺や神社にもっともっとと出かけてもらいたい。奈良にいたる間に人生を変えてしまいうような何かを感じてもらいたい。すばらしい4年間にしてほしいですね。

奈良の素晴らしさを、多くの人に伝えていく必要があります。そこでまず小学生に伝えようと一昨年から「世界遺産学習」として奈良市の全小学校48校の5年生に奈良国立博物館に来てもらう取り組みを行っています。講堂で30分話をし、展示室で30分すごす。この60分間で奈良を大好きになつてもらうのです。もしかするとその子にとって奈良国立博物館に来るのは、一生で最初で最後かもしれない。まさに60分一本勝負です。そして子どもたちだけではだめ。先生にも伝えなければなりません。ですから、先生の研修もここで行っています。校長先生の研

「教育普及」ということですが、私は幼児教育専修で、子どもたちに奈良のことや歴史を伝えていくこともあると思います。いろいろな方を相手に解説や講習をされていると思いますが、子どもたちに伝えていくために何かされていることはありますか。

奈良国立博物館は展覧会の案内を幼稚園にまで配布しています。そのようなことをしているのは、全国で奈良国立博物館だけだと思います。

私は、3歳になればどんな深いことも理解できると考えています。なので「3歳から115歳まで同じ話をする」ようにしています。「115歳」というのは現在の世界最高齢らしいのでそういうキャッチフレーズにしています(笑)

奈良では8世紀の木造建築が今も使われています。こんな場所は世界で奈良だけです。そのほかにも奈良には本当に素晴らしいものがある。でも、奈良の人たちは、奈良のことを知らない。それが残念です。





幹周6.8mもあるトチノキの大木



学ぶ!

楽しむ!

# ならやま オープンセミナー 体験報告



ならやまオープンセミナーは、奈良教育大学が開催している、一般の方を対象とした公開講座。毎年バラエティに富んだ講座を開講し、多くの方に参加いただいています。

今回はその中でも、夏休みに親子で自然に触れ合って自然の大切さを学ぶ『夏の森を親子で楽しもう～野外生活体験～』、毎回定員を超える申込みがある人気講座で料理に慣れていないシニア男性を対象とした『シニア男性のための料理教室』の二つに実際に参加してみました。

企画・広報室

夏の森を親子で楽しもう  
～野外生活体験～

7月24日から26日にかけて、奈良教育大学自然環境教育センター奥吉野実習林で、親子9組22名が参加して行われました。奥吉野実習林は、奈良県五條市大塔町の山と川に囲まれた環境にあり、さまざまな植物や昆虫などを見つけることができます。

かまどご飯は一味違う

参加した親子は、実習林に到着早々テントを設営。変わりやすい天候を予想して、雨水を流しやすくなるなどの工夫も見られました。その後、子どもたちが待ちに待った川遊びに移動。近くを流れる赤谷川にカヌーを浮かべたりして、同行した学生スタッフらと夏の川遊びを楽しみました。

行程中の食事は、原則各テントサイドに作ったかまどで調理します。日頃は何の苦労もなく点く火も、ここでは火をおこす作業にひと苦労。子どもも大人も、マキ割りとおこしに汗を流し、夕食を食べる頃には少したくましくなった子どもたちの姿が印象的でした。

夜のミーティングでは、各講師から子どもたちへ、昆虫についてのお話などがありました。中には、講師が持参した巨大なミミズの標本に、「うあーシールポルトミミズや!」と答える昆虫好きな子どもも。また、サプライズゲストとして、大学イメーτζキヤラクター『なつきょん』が登場すると、子どもたちは大興奮。即席の写真撮影会となりました。

自然を体験

二日目には、実習林の山登り組と林道散策組に分かれて自然観察を行いました。山登り組は、実習林中腹にあるトチノキの大木まで向かい、さらに近くの沢で昼食をとりました。道中には、カラフルなキノコなどさまざまな植物や昆虫を見つけることができ、親子はその都度講師に質問していました。そのほかにも、二泊三日の行程を通して、参加者みんなでバーベキューや流しそうめんをしたりと自然を満喫し、日頃は体験できないような生活を送ったことで、ひと回りもふた回りも子どもたちが大きくなったように見えました。また、子どもだけでなく、参加した大人たちにとっても、子どもたちの家では見せない意外な一面が垣間見られたことでしょう。

シニア男性のための料理教室

この講座は、主に中高年の男性シニアを対象に、料理の基本を学んでもらうため、地域食育活動を進める本学の「教員養成大学による地域食育推進プログラム」(文部科学省「質の高い大学教育プログラム」選定)の一環として開催されました。

調理は楽しい

この日は、全四回の講座の第二回目。まず、食に関するビデオ『奈良に



餃子の皮の薄さにびっくり

メインの餃子の皮作り。寝かしておいた生地を麺棒で薄く伸ばし、コップで丸型に抜いていきます。しかし、市販の透き通るような薄さまで伸ばすのは至難の業…。生地が破れたり、分厚くてアン(具)

その班によって進め方はさまざま。慣れない手つきで、受講生同士話し合いながら、笑顔で調理を進めていました。

自分で作れば喜び二倍

を包めないなど悪戦苦闘。それでも何とか30〜40個ほどの餃子を作り終え、フライパンで焼き色をつけ、水の分量を慎重に見極めて蒸し焼きにしていきました。

実習室に、中華料理店のような香ばしい良いにおいが広がります。全てのメニューの調理を終えた班から、それぞれ試食を始めます。手作り餃子のお味は…皆さんの顔が表す通り、どの班も大成功の様子。調理の手間を体感し、家で食べる奥さんの料理のありがたさを再確認する人や、自分で作った料理の味に大満足の人など、いつもとはひと味違った食事を楽しんでいました。餃子や杏仁豆腐が意外と簡単に作れることを知って、「また家でも試してみよう」との声も聞こえていました。



「教員養成大学による地域食育推進プログラム」では、このほかにも地域食育活動推進のために「食育かるた」を作成し、奈良県内の各小学校へ配布するなどしている。





# 広がる海外連携協定校！ 新たに2大学と締結

奈良教育大学では、9つの海外大学と交流協定を締結していましたが、今回新たにアジアの2大学と連携し、併せて11大学と交流を深めることとなりました。新たに協定を締結した華東師範大学（中国）と公州大学校（韓国）を紹介します。



**中国**  
**華東師範大学**  
EAST CHINA NORMAL UNIVERSITY

中国・上海市にある国立大学。大夏大学と光華大学を主な母体として、1951年に設立された。  
名称に「師範大学」とあるが、総合大学であり、人文学院や理工学院、芸術学院など18の学院がある。広大なキャンパス内に約23,000名の学生が学んでおり、長期留学生数は約2,400名で、そのうち日本人留学生は334名である。世界各国に120校もの海外協定校があり、そのうち日本の協定校は、東京学芸大学や神戸大学、早稲田大学など32校ある。  
Zhongshan（中山）キャンパスは、上海の中心街から車で30分程度と、便利な場所に位置している。そこから南西に車で40分ほど離れた場所に、新キャンパスである Minhang（閔行）キャンパスがある。



調印後の握手



教師教育技能訓練実験研究センター



**韓国**  
**公州大学校**  
KONGJU NATIONAL UNIVERSITY

韓国・忠清南道公州市にある国立大学。2年制の道立師範大学として1948年に設立され、1991年に総合大学として国立公州大学校になった。師範大学や工科大学など、6つの単科大学と7つの大学院を備える。中でも師範大学は22の学科を持ち、入学定員567人と韓国の師範大学で最大規模を誇り、全国師範大学評価で最優秀評価を獲得している。  
公州大学で3年間修学後、アメリカの大学で1年間留学する「3+1制度」を導入するなど、国際化にも力を入れている。  
新官キャンパスのほかに3ヶ所キャンパスがあり、約2万名の学生が学んでいる。海外15ヶ国43の大学・研究機関と交流協定を結んでおり、日本では東京学芸大学や山口大学、鹿児島大学など、7校が協定を結んでいる。



師範大学



調印後の握手

## 本学の国際交流協定の現状と展望

副学長（国際交流・地域連携担当）

加藤 久雄



この7月と8月に、華東師範大学と公州大学校の双方と国際交流協定を締結したことによって、本学の国際交流協定大学は、8カ国11大学ということになりました。1986年のロック・ハイブン大学からはじまり、23年間の交流を眺めてみますと、1999年までのアメリカ、ヨーロッパを中心とした国際交流に加え、この10年間で、アジアを中心とした国際交流も盛んになってきたといえます。

成を主目的とする教育大学との交流が深まってきたこと、アジアの大学との協定が増えてきたこと、西安や公州のように奈良と深い歴史的關係のある地との間での地域文化に根ざした協定が結ばれたことなどに見ることができます。  
このような方向性の中で、現在、台湾、カザフスタンなど、4つの大学との協議が進められています。協定校との教育・研究の交流を、交換留学生やシンポジウムなどの様々な企画を通じて、ますます盛んにしていきたいと考えています。

本学は、中期目標において「アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際交流を広く推進する。」ことを重点取り組みとして掲げています。また、「多数の世界遺産を有するなど、特色ある奈良の自然・地域文化に根ざした「歴史と文化」「環境と自然」「人間と教育」を重視した個性ある教育研究、学際的研究を推進する。」「教育実践における応用ないし再構成が可能な専門的知見を提供し得る、高度な質の教育研究を促進し、実践的指導力を備えた有能な教育者を養成する。」の2つを掲げています。国際交流協定の23年間の歩みの中にも、このことを明確に読みとることが出来ます。それは、教員養

1986年7月	ロック・ハイブン大学	アメリカ
1993年4月	ハイデルベルク大学	ドイツ
1996年7月	セントラルミシガン大学	アメリカ
1999年2月	嶺南大学	韓国
1999年3月	ブカレスト大学	ルーマニア
2003年12月	ラジャバット地域総合大学 (RU40)	タイ
2004年3月	リヨン第3大学	フランス
2005年6月	西安外国語大学	中国
2005年12月	インドネシア教育大学	インドネシア
2009年7月	華東師範大学	中国
2009年8月	公州大学校	韓国

## 大学の取り組み

### 教員免許状更新講習前半を終えて

特任講師（教員免許状更新講習担当）

西川 雅信

#### I 更新講習まっただなか 1 必修領域

第一回必修領域の更新講習は、6月27・28日の二日間、そして学校等が夏期休業期間に入った8月6・7日には第二回、8月22・23日には第三回の講習が行われました。各回12時間の講習です。必修領域講習は、幼稚園から小学校・中学校・高等学校・特別支援学校までの幅広い受講者を対象にしており、時代や社会の変化、子どもの変化に適切に対応するための最新の教育知識や技術を修得するとともに、今までの教員生活を振り返り、これからの自身の方向を考える絶好の機会を提供しているように思われます。第一回受講者は342名、第二回は198名、第三回は95名でした。

特性を活かした内容や、直接関わっている教育現場での諸課題、興味関心の強いと思われる内容等について行われました。  
特に、奈良の地の特性を活かした「地域の伝統文化と文化財を活かす教育」「奈良の森と水と動物」や、教育現場の電子化による「教員のICT活用指導力」、現場での児童生徒へのきめ細かな指導や支援を目指す「学習活動に活かす心理学」「特別支援教育の当面する課題Ⅰ・Ⅱ」等は、現場での必要度や関心度も高く、受講者は熱心に講義に耳を傾けていました。中には、講習の後直接講師に質問や相談をしている姿も見られました。

#### II 前半を終えて

講習日最後に行われた評価アンケートを見ると、「役に立つ講義であった」「教育実践の参考になります」等個別に感想が書いてあるものもあり、相対的に良好な評価でした。  
しかし、わずかながらも講習に対して批判的なご意見やご指摘もいただいています。講習内容が現場の先生方のニーズに合致しなかったり、内容が高度になり過ぎて受講者が理解しにくかった講習等については、その都度改善を図るよう適切に努力をしています。

後半の免許状更新講習も現場の先生方の教育力向上に役立ち、「積極的に参加しよう」「受けて良かった」「参考になった」と喜ばれるような講習になるよう、工夫改善に努めていきます。

#### 2 選択領域

選択領域講習は、協力大学等の講座も含め、延べ49講座が8月上旬と下旬に分かれて開講されました。この講習は、先生方個人の指導力向上を目指して、校種や教科の



## スポーツ医学に 強い教員の養成を



保健体育講座 准教授  
笠次 良爾

### ■病院から教育現場へ

整形外科医の私が本学に飛び込んできた理由は、ひと言で言えば「傷害予防に関する研究と教育」です。これまで病院での診療だけでなくスポーツ現場でのメディカルチェックや大会救護、チームドクターを引き受ける中で、数多くの選手や保護者、指導者に出会いました。そのなかで彼らのケアに対する対応と身体に対する知識が十分であることを痛感し、ケガをした子ども達を病院の中で待っているのではなく、積極的に現場に出て傷害予防に関する知識を啓発する必要性を感じてきました。現在我が国のスポーツ指導者は学校教員が担当することが多いので、それでは教員の卵を学生のうちに意識改革すれば、10年、20年後のスポーツ現場を変えることができるのではないかと考えたのが一番の理由です。



初代ゼミ生と

### ■傷害予防への取り組み

ケガの発症に影響を与える因子には様々なものがあります。筋柔軟性、関節弛緩性、O脚、扁平足などの内的因子、練習強度・量、シューズ、グラウンド、気象条件などの外的因子、それから体調不良や睡眠不足などの誘発因子、また敏捷性や調整力などが影響すると言われてきていますが、成長期の子ども達は骨成長に伴い身体が劇的に変化するため、特に内的因子が大きく変化します。

私の研究室では、これらの様々な因子が傷害発生に影響するのか、また介入することによって傷害発生を減少させることが可能かどうかを、学校や地域のスポーツクラブなどの現場にて検証していきます。さらに分野をスポーツ医学だけでなく学校保健領域にも広げ、両分野の諸問題にアプローチしていきます。附属学校園や地域とも連携し、息の長い研究を行えばと思います。

立ち上げて2年目を迎えた現在、ゼミ生は計10名です。追いかけているテーマは学校保健からスポーツ医学と多岐にわたっていますが、学生の意志をできるだけ尊重し、ともに取り組みたいと思っています。

## 英語学習の意義を考え、 習得のプロセスを学ぶ



英語教育講座 准教授  
佐藤 臨太郎

### ■英語を学ぶということ

小学校での英語の必修化や、新学習指導要領による高校での英語による英語の授業など、いわゆる「使える英語」の必要性がますます高まってきているように見受けられます。またその一方で、「英語だけを学ばせるのはおかしい。英語だけでなく、ほかの言語を通じての国際理解が必要だ」という考え方もあります。私も、「英語さえできれば良い」とか「英語ができれば国際人だ」という考え方には反対です。さまざまな言語や文化について学び、広い視野から多角的に判断できる能力を身につけることが理想です。しかしながら、我々が第二・第三外国語を同時に同じように学習・習得していけるのならば良いのですが、残念ながらそうはいきません。

そこで国際語、国際補助言語としての英語をしつかりと深く身につけ、非英語母語話者同志が英語でコミュニケーションをしているという現状の中、そのような人を含めた世界中の人と理解し合える英語力を身につけることが、最優先課題であると考えています。英語を学んでいくプロセスの中で人間的にも鍛えられ、私が英語教育の第一の目標と考える「言語としての英語の運用能力の伸長」を果たすことにより、その結果として、英語を通じて「異文化理解」「国際理解」が可能になるのではないのでしょうか。もちろん、「異文化理解」と英語学習は本来的に別なことで、「国際理解」について日本語でしっかりと深く学ぶことが重要なのは言うまでもありません。

### ■プロセスを学んで しっかりと教える

研究領域は、教室環境においてどのようなプロセスで英語が習得されていくか、という教室第二言語習得研究です。現在の3人のゼミ生（学部四回生2名、修士課程1名）には、それぞれの研究興味・関心に応じて、実践と乖離した単なる表層的な理論的研究ではなく、充分に英語そのものと格闘しながら、将来教師としての（特にそのプロセスにおいて）糧となり得る研究を求めています。高度な英語習得の過程を自らも経験し、それに基づいて、しっかりと教えることのできる教師になって欲しいと願っております。

ちなみに、ゼミ生の一人は英語・異文化と格闘し、自分自身を鍛えるため、この夏一年間のアメリカ留学に旅立ちました。（頑張るんだぞー！）



ゼミ生と

## 若葉マークが とれました



奈良市立東登美ヶ丘小学校  
橋本 桂子  
（平成20年3月 教育学部卒）

教員になって二年目、今は一年生の子どもたち25人と毎日元気に学校生活を送っています。

### ■不安と自信

一年目は二年生の担任をしました。初めて子どもたちに会う日は、楽しみ半分、緊張半分でした。しかし、子どもたちはすぐに新任の私を受け入れてくれました。「僕らはこの学校の二年生やけど、先生は一年生やから、何でも教えてあげろ!」と、頼りになる言葉をかけてくれたことを思い出します。

心配だったのは、保護者との関係です。大学を卒業したばかりの私が担任で、保護者の方はどう思うのかな...と不安で、マイナスイメージになっていた時がありました。そんな時、



算数の授業中

### ■今、楽しいなこと

ある保護者の方が、「二年目の先生に担任してもらえるなんて、なかなかないことなのでうれしいです。子どもたちとたくさん遊んでくれそうだし、安心していきます」と言ってくれました。この言葉で私は、子どもたちと全力で接しているという前向きに考えることができ、教師として少し自信を持つことができました。

二年目の今年は、昨年よりは心に余裕を持って、子どもたちと接することができています。幼稚園や保育園から進級してきて、学校生活にうまく慣れてくれるか不安でしたが、さすが子どもたちです。新しいことを吸収する力、順応力は素晴らしい、何でも素直に受け止めてくれます。一学期の間だけでも、四月から七月にかけての子どもたちの変化には驚きました。夏休みの間は、子どもたちの顔を早く見たいなあと思って過ごしました。この子どもたちが今後、いろいろな学習を通して、どのように成長してくれるか楽しみです。

### ■日々、心がけています

私はまだまだ、授業や子どもたちへの関わり方、保護者の方への接し方など、勉強不足なことが山ほどあります。しかし、子どもたちと毎日笑ったり、泣いたり、怒ったり、喜んだりしながら、日々前向きに子どもを見つめ、一緒に成長していきたいと思います。

## 信頼から 感動へ



株式会社オージースポーツ  
神戸市立市民福祉スポーツセンター事業所  
杉本 和則  
（平成16年3月 教育学部卒）

### ■仕事のやりがい

私は現在、神戸市の指定管理施設「神戸市立市民福祉スポーツセンター」で、ストアマネージャーとして働いています。

私のいるセンターでは、交流を目的とした障害者優先施設で、知的障害や身体障害などのある方をはじめ、高齢者、一般利用者と幅広い方が利用されています。

主な仕事内容は、利用者の方へのトレーニング指導や障害者の方へのトレーニング指導、エアロビクスやアクアビクスといったプログラムを担当することです。スポーツ大会やイベントの企画運営、また地域で行われる体力測定や体操教室に外部指導しに行くこともあります。

初めは、障害者の方への接し方やトレーニング指導に戸惑うことが多かったのですが、多くの人と接することで、その人に合ったトレーニング指導や対応ができるようになりました。利用者の方から頼りにされ信頼されること、そしてお褒めのひと言が何よりのやりがいにつながると感じます。

### ■大学での学びから

大学在学中は、スポーツ社会学研究室に所属していました。卒業論文では、公共スポーツ施設の顧客満足度調査を行ったこともあり、現在はその経験を活かして毎年顧客満足度調査を実施し、分析内容を施設運営に役立てています。

ほかにも、私が大学の授業で学んだことは、個々の特性に合わせて用具やルールを工夫し、誰もが楽しく運動ができるという、運動指導の基盤になっています。

私たちが提供するものは、運動指導という形のないサービスであり、提供する側の知識や技術はもちろんのこと、人間力も問われる仕事であると感じます。利用者との信頼関係を築くことが第一であり、そこから運動指導を通して、さまざまな感動や満足が生まれと感じます。これからも、全体的に満足と感動を与えられる施設作りを行っていきたいと考えています。



アクアビクスイベントの様子



## 留学生レポート

# 日本から一步外へ

学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 4 回生  
(奈良県立登美ヶ丘高校出身)



山地 心  
from Korea

### ■英語主体の韓国生活

僕は、2008年の9月から2009年の6月までの約10ヶ月間、交換留学生として韓国に留学していました。韓国へは、韓国語を習得するためと、外から日本を見るためという目的を持って行きました。英語とは違って韓国語にはまったく馴染みがなく、留学初日に寮へ到着した時、部屋の扉が開けられない、灯りがどれかわからない、洗濯機が使えないなど、最低限の生活をすることすらままならない状態でした。初めてのルームメイトはアメリカ人になり、基本的なコミュニケーションはすべて英語でした。韓国語を学習するために来たのに、受ける授業はほとんどが英語で行われ、楽しみにしていた韓国語を学ぶ授業でさえ、ほとんどが英語で進んでいきました。自分で韓国語を勉強しても、実際に聞いたり話したりする機会がなかなか作れず、また、英語の能力も未熟だったので、ほかの交換留学生ともうまくコミュニケーションがと

れず、一人で勉強ばかりしていました。

### ■言葉は手段

このままではダメだと思い、思い切った勉強の方向を変え、英語の勉強を増やしました。韓国では、日本よりも英語の能力が問われる機会が多いので、ほとんどの学生が英語の勉強に力を入れています。英語が話せれば留学生とも話ができて、さらには韓国人とも知り合いになれると考えました。最初の半年は、ほとんどの時間を英語の勉強に費やし、友達を増やすこと、たくさんの人と話をすることを心掛けました。韓国での生活を始めてからずっと勉強を続けていた成果が、春になってやっと実を結び始め、留学が終わる頃には、ほとんどすべての人と英語と韓国語で話ができるようになっていました。話せるようになってから、ますます友達が増えいき、たくさんの友達といろんな話をしました。韓国から見た日本とはどんなものか、韓国の学生は何を思っているのか、といった、日本については知り得ないことをたくさん知りました。

言語はあくまでも道具であり、手段です。僕が留学生生活で学んだことは、この道具の基本的な使い方と、それを使った時の面白さと、道具をうまく使えた時の忘れられない感動です。



留学生フィールドトリップ（浦項にて）

## 男子ソフトボール部

### 後悔だけはしない



総合教育課程 文化財・書道芸術コース 2 回生

主将 小島 和人

(京都府立西舞鶴高校出身)

私たちソフトボール部は、一回生6人、二回生7人、四回生4人、マネージャー7人で、月・火・木の週3回活動しています。公式戦は、春リーグと秋リーグの年2回のみですが、現在秋リーグに向けて他大学との練習試合を行い、チームの改善点など見つけて練習メニューなどを変え、弱点を克服しつつ、チームのレベルアップをめざしております。

今年の春リーグでは、全敗してしまふという屈辱的な結果となりました。しかし、一回生も加入してチームにとって大きな力となり、練習試合では二勝二敗と良い形に仕上がってきています。今年の秋リーグでは、三部から二部への昇格を目標とすると同時に、奈良教育大学ソフトボール部の強さを他大学に知らしめるような気持ちで望んでいきたいと思っています。

ここで受験生に向けてのメッセージということで、私の受験について話したいと思います。私は、中学から高校一年まではソフトテニス部に所属していましたが、受験との両立ができなくて途中で退部し、高校二年から本格的に受験勉強に取り組みしました。その高校二年の夏、塾の先生のひと言に私は



チームの仲間

とても感動しました。

「自分の人生は一度きり、だからこそ後悔だけは残してはいけない」

人を教える立場になればよく話される教訓ではありますが、夏休みに勉強ばかりで「つらいな、しんどいな」と心が折れそうな時にこの言葉を聞いて、私は心の悩みを振り切ることができました。その後も苦難はありましたが、そういう時はこの言葉を思い出して、受験勉強を乗り切りました。私は部活でも、「後悔だけはしない」という言葉を野球帽の下に書き、落ち込みそうな時はそれを見て頑張っています。

## 課 外 活 動

## 留学生レポート

# 初体験！日本の生活

研究生 (西安外国語大学)

孙 文俏

from China



春爛漫の4月、交換留学生として奈良教育大学で一年間勉強する機会に恵まれました。日本での生活はたった数ヶ月ですが、この間に経験した驚きや感動の数々は、一生忘れられない思い出になるでしょう。

### ■驚きの連続

まず、日本に来た当初は驚きの連続でした。最初に驚いたのは、日本では新鮮さが大切にされていることでした。新しいものは値段が高く、生鮮食品は夕方6時頃を過ぎると元の値段から値引きされ、半額になることも珍しくありません。そして、日本にはカラスがたくさんいることにもびっくりしました。特に燃えるごみを出す日が来ると、たくさんのカラスが町の中に集まってくるので、不思議に思ったことは、人が近づいても逃げないことで、それどころか、私たちがカラスに観察されている気がしました。ごみと言え、ごみ処理に対して驚いたこともあります。中国ではごみ捨ての日

決まっていませんが、日本では、燃えるごみと燃えないごみを出す日が決まっているそうです。中国もそうならいいなと思います。

時間が経つと、最初は驚き続きの生活も、次第に日本の良さが見えてくるようになります。日本の良さはいろいろありますが、一番良いところはやさしさがあふれていることです。

### ■優しさに感謝

私が住んでいる寮の管理人さんは、初めて日本に来て不安だらけの私に、いつも親切に声をかけてくれました。また、学校が開催してくれた多種多様な活動のおかげで、見学旅行や能の鑑賞のような素晴らしい体験もできました。またバイト先を探していたところ、近くのスーパーの店長さんが、外国人である私をこころよく採用してくれました。時々日本語の意味がわからなくて困っている私に、辛抱強く丁寧に説明してくれました。



寮の前にて、管理人さんと

化していくか、楽しみです。これからも日本についてもっと勉強を重ね、さまざまな体験をしていきたいと思っています。

## 舞台工房 KATE

### 意志が舞台を創る



学校教育教員養成課程 身体・表現コース 2 回生

部長 神木 千聡

(奈良県立高円高校出身)

舞台工房 KATE は、劇団キラキラ座と共に、奈良教育大学の二大演劇系サークルとして活動しています。私たち KATE の活動をひと言で表すと、「やりたい人がやりたいことをやりたいようにやる」です。その言葉通り、KATE はサークルとしての明確な枠組みを作っておらず、一度だけでも KATE の出す企画に参加したり協力したりしたら、その時点で KATE メンバーと名乗ることができる……といった、オープンで自由なやり方で活動しています。

舞台工房 KATE の最大の強みは、「こんなことがしたい」と誰かが強い意志を発したら、必ず誰かの賛同や協力がいつの間にか出てくることです。自由なやり方というのは、手探りのやり方でもあります。メンバーと衝突しながらも協力し合って、企画を成功させた時の達成感と感動はひとしおです。

メンバー間には先輩・後輩に関係なく、自分たちの出せる力を出し合える関係を目指しつつも、アットホームな雰囲気の中で活動しています。OB・OG の先輩方がやってくることもあ

り、いろんな人と交流することができ

ます。活動日も、KATE で打ち立てた企画のメンバーでスケジュールを調整して決めていくため、自分たちのペースで活動できます。

「舞台工房」という名前の通り、演劇に限らず舞台でやる発表という形の活動ならば、KATE は何でもやっていこうと思っています。

本当に必要なのは、やってみたいという「意志」だけです。舞台工房 KATE で、表現することの面白さを感じてみてください!!



平成 21 年度 4 回生卒業公演『TABOO』



## 幼稚園

# インフルエンザ流行に対処して

附属幼稚園 養護教諭

清水 智佳子



## 幼稚園にも 保健室の先生がいます

附属幼稚園に養護教諭が定員配置されて、丸十年が経とうとしています。  
子どもたちが自立に向けて、健康で安全な生活の基盤となる基本的な習慣や態度を身につけられるよう、園の中の遊びや生活の中で、自身が『動く保健室』として、清潔、感染予防、睡眠、食事、安全などの面から、養護教諭の視点で援助しています。

## 機会をとらえて 自分でできることから

子どもたち自らの生活と関連づけながら、健康について考えられるように、機会をとらえて保健指導を行っています。  
今年の新型インフルエンザ国内感染者発生以来、幼稚園としても予防策として、子どもたちに手洗い保健指導を行いました。指の間や指を一本ずつ丁寧に洗うことや、手首やひじまで洗うことも伝えました。  
保健指導という特別な時間だけでなく、幼児と一緒に生活しながら、日常生活の中で気がついた時に継続できるよう、ほかの教職員と連携しながら、日々の生活の中で繰り返し援助していくことも心がけています。

## せんせい やってみる！

毎年の保健指導の中で、子どもたちがお気に入りなのが、『まほうがい』。  
この『まほうがい』は、『まー』と言うとするとウィルスの感染しやすい扁桃腺に水が当たり、『ほー』と言うと、こちらもウィルスの感染しやすい口蓋垂に水が当たるので効果的と、新聞で紹介されていたものを取り入れました。  
よく言う「がらがらがいがい」は子どもたちには難しいようで、水を含んで天井を向くと、口からすぐ水がこぼれてしまう子どももいます。

「まほうがいはい、かぜをひかないおまじない」「水を口に入れてね、天井を向いて、『まー』『ほー』という、のどがすっきりきもちよくなるの」と、実際に子どもたちの目の前でやってみせます。子どもたちは興味津々、とても熱心に話を聞いています。  
「せんせい やってみる！」と、子どもたちは即実行。  
「まーほーっというときもちいいなあ」「まーほーのうがいやつたらできるわ」「うちでもまいにちやつたほうがええな」「おかあさんにも教えてあげよう」と、喜んで話しています。  
指導の内容は、保護者の方にも「ほけん

## 小学校

# 「たかまどの会」の活動

～学校教育への理解と支えを自然な形で～

附属小学校 主幹教諭

中村 幸成



## 「たかまどの会」の発足

「たかまどの会」は、「父親も何かできることを」ということで、数年前PTAのボランティア組織として発足しました。土・日曜日など、休日に動きやすい男性保護者が中心となり、親・子ども・教員のつながりを深めようと活動しています。  
これまで、行事の企画・運営や、学校行事でのボランティア活動などを行ってきました。また、会員相互の親睦を深める意味で、ソフトボールも行っています。

## 「山焼きを見る会」

「親子プール」で



「たかまどの会」主催の「親子プール」

「山焼きを見る会」は、若草山が附属小学校の目の前に望めることから、校舎の三階や屋上から、親子で山焼きを見ることが出来ます。受付から誘導、そして山焼きの

## フィールドワークや体育大会で

フィールドワークは、ふるさとである奈良の自然をはじめ、地域を知る取り組みとして学校が行っており「たかまどの会」はそういった行事にも参加しています。野外では、子どもへの心配りや助言など、見守り役として関わるだけでなく、そこには子どもと一緒に大人も学んでいる姿があり、子どもたちもそのことがうれしい様子です。そのほか、体育大会での安全管理やかたづけ、ふだんできにくい溝の掃除や草刈りといった、教育環境を整える活動もしています。

そして、このような具体的な活動を通して、自然な形でみんなの気持ちや学校や教育に寄せられていけば…と思っています。

## 中学校

# 未来を創るのはわたしたち

～2009ユネスコ東アジア子ども芸術祭イン奈良の活動から～

附属中学校 教諭

小嶋 祐同郎



## 6つの国や地域が 歌やゲームで交流

「Learn to Live Together ～共に生きることを学ぶ～」をテーマに、8月6日から8日にかけて、「2009ユネスコ東アジア子ども芸術祭イン奈良」が開催されました。本校はASP（ユネスコ協同学校、以下ユネスコ・スクールと記す）加盟校であることから、奈良女子大学附属中等教育学校、奈良市立飛鳥小学校の児童生徒と共に、8月7日に大学講堂において交流会を実施しました。

当日は、中国・韓国・モンゴル・マカオ・香港の五つの国や地域から訪れた百名余りの生徒や引率者と共に、日本の三校の生徒が企画した歌や演奏、ゲームを楽しみ、その後昼食会となりました。訪問団の午後の予定もあり、短い時間の交流プログラムではありましたが、終始笑顔と歓声に包まれた、和やかで楽しいひとときを過ごすことができました。

日本の生徒がおこなった中国語やモンゴル語での挨拶では、それぞれの国の子どもたちから大きな歓声が起こり、また本校の生徒が用意した各国の世界遺産を題材にしたクイズでは、ステージとフロアが一体化した熱気に包まれました。「言葉はうまく通じなくても、一生懸命やれば心は通

だより」を通じて伝えるようにしています。子どもたちの意欲的な姿を保護者の方にも認めてもらったり、親子で一緒に健康について考えてもらったりするきっかけになれば…と考えています。

## 二学期からさっそく対策を

今年の秋以降、新型インフルエンザの流



登園してすぐに手洗い・うがいをする子どもたち

行が危惧されていますが、風邪やインフルエンザへの対策として、二学期からは、朝登園してからすぐに手洗い・うがいをするようにしています。  
インフルエンザの感染拡大を防ぐためには、一人一人が予防に努めることが大切だと言われています。子どもたち自身が幼児でもできるやり方で、健康な生活を維持して欲しいと願っています。

じ合うことがわかった」「同じ東アジアの子どもなのだと何度も感じた」という生徒たちの感想からも、この活動が彼らにとって、平和や相互理解のヒントを受け取る貴重な体験となったことが伺われました。

## ユネスコ・スクールとして

近年、国際理解教育やESD（持続可能な開発のための教育）の推進役として、ユネスコ・スクールの活動の充実が唱えられ、加盟校が急増しています。本校は、ホールスクールプロジェクトとしてこれに取り組んでいます。黎明期から発展期を迎えつつあるユネスコ・スクール活動の西日本の拠点となるべく、大学ともいっそう連携を深め、実践研究を推進していきたいと願っております。

「未来を創るのはわたしたち若者です。どうか輝かしい未来のためにつながりあいましょう」という、閉会の際の言葉を実現させるためにも、この活動を大きな糧にしたいと思っています。



交流活動の様子



# 記念すべき 第60回輝麓祭

大学祭実行委員会 綱 真奈美

総合教育課程  
文化財・書道芸術コース3回生  
鳥取県立米子東高校 出身



今年の7月に開催された学生大会によって大学祭「輝麓祭(きぼうさい)」が承認され、記念すべき第60回を開催する運びとなりました。

私たちのコンセプトは「ハンドメイド」です。業者に委託することの多い舞台背景の組み立て・装飾やパンフレット原稿、ゲート・学内装飾、宣伝看板に至るまで、すべて「ハンドメイド」です。手作り感のある私たちの「作品」は、学生と教授の仲が良く、友達の友達は大体知り合い…といった、奈良教育大学の和気あいあいとした温かみのある校風を表していると考えています。他の大学祭とはひと味違った目線で楽しんでいたければ幸いです。また、輝麓祭の特徴は、学生向け企画のほかに、教育大ならではの子ども向けの企画が複数開催されることです。学生を含め、大人から子どもまで楽しんでいただけけるよう、準備してまいります。

そんな不思議な「ちから」をもった「遊園地」に、奈良教育大学を变身させようと考えています。正門を入った所に設置予定の「ゲート」装飾は、私たち大学祭実行委員も楽しみにしていますので、ご期待ください。

大学祭期間中開催予定の企画、輝麓祭恒例の「仮装行列」は今年もやります! おのの好きに仮装した団体が、演奏とともに、ならまちや下御門商店街、餅飯殿商店街、東向き商店街、小西さくら通りといった、奈良市街の主な通りを行進します。また、昨年誕生した本学マスコットキャラクター「なっきょん」に協力してもらって実現した企画が、「なっきょんをさがせ!!」です。これは、学内に散らばった「なっきょん」を探して、豪華商品をもたらおう! という企画です。「なっきょん」が誕生し、その着ぐるみが昨年の輝麓祭でお目見えしてから、学内外で人気のある「なっきょん」がふんだんに登場します。さあ、あなたは「なっきょん」にいくつ出会えるでしょうか。このほかにも、桜井の三輪明神大神神社から和太鼓大美和さんを招待したり、科学体験「奈教一受けたい授業」、さらには前夜祭・後夜祭を企画して



テーマ「奈教!なら今日!!大盛況!!!」を目指して

毎年輝麓祭では学生から案を募集し、その年の大学祭テーマとポスターを決定しています。昨年は、本学開校120周年にちなんで「120ページ目」というテーマを掲げ、企画や装飾に盛り込み、輝麓祭を盛り上げました。今年も例年通り学生からテーマを募集し、「奈教!なら今日!!大盛況!!!」に決定いたしました。テーマに込められた「輝麓祭が大盛況となるように」という願いが叶うよう、企画・装飾を考えてまいりました。

学内装飾のコンセプトは「遊園地」です。遊園地は子どもだけが楽しい場所ではありません。木馬が踊るメリーゴーランド、色とりどりの風船を配るピエロ、回転するおしゃやれなコーヒーカップ、かわいいう芸をする動物たち、楽しそうな笑い声…。誰もが童心に返ってしまう、

います。また本学サークル、部活等の企画イベントも開催されますので、どうぞ足をお運びください。

企画・装飾もさることながら、輝麓祭にご来場の折にぜひ立ち寄っていただきたいのが、野外スペースに軒を連ねる「模擬店」、講義棟で行われる「展示・研究発表」です。

「模擬店」は、各サークルや部活等の団体が運営しています。たかが模擬店と侮るなかれ、若さゆえ(?)の独創的なレシピだけでなく、各団体に代々伝わる伝統の味があるのです。あたりに漂う良い匂いと活気のある呼び込みに誘われて、お気に入りの味を探してはいかがでしょうか。

各研究室の研究発表や文化部の展示を行っている講義棟は、「模擬店」が立ち並び先にあります。奈良教育大学で学んでいること、日々感じ表現したいことを、少しでも皆さまにお見せできたらと考えています。一階から三階まで隅々散策していただきたいと願っております。このページによって、少しでも「輝麓祭」に興味を湧きましたら、うれしく思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、ここに至るまでにご協力いただきました奈良教育大学関係者の方々、協賛くださいました企業の方々にお礼申し上げます。

● アクセス

**第60回 奈良教育大学 輝麓祭** 開催時間 9:00~21:00

● 主なイベント

仮装行列 仮装審査会	模擬一試 なっきょんをさがせ!! 選手権大会	子どもフェスティバル 第14回園遊三輪車レース まつりじゃいWA-DAIKO 〜教太〜	グラキタリウム 軽音ライブ
Fri	Sat	Sun	連日

〒630-8528  
奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学 学生会館内2F 大学祭実行委員会準備室  
☎0742-27-9276(呼出)  
Mail: kibosai@hotmail.co.jp Website: http://kibosai.bambina.jp/

## 活躍する奈良教育大生

### 体育系

#### ◆水泳部

・第47回近畿国立大学体育大会  
100M背泳 第3位  
濱本拓朗(教育学部2回生)

#### ◆硬式野球部

・第47回近畿国立大学体育大会 第2位  
平成21年度近畿学生野球連盟春季リーグ  
II部リーグ ベストナイン  
二塁手 舟井克也(教育学部3回生)  
外野手 山田健介(教育学部3回生)  
指名打者 近藤俊一郎(教育学部3回生)

#### ◆卓球部

・平成21年度奈良県大学選手権  
ダブルス 第2位  
福井伸大(教育学部3回生)  
樹田健太(教育学部2回生)

#### ◆陸上競技部

・第47回近畿国立大学体育大会  
男子800M 第1位  
丸山雅志(教育学部1回生)  
・第53回全国教育系大学陸上競技大会  
男子800M 第3位  
丸山雅志(教育学部1回生)

#### ◆弓道部

・第47回近畿国立大学体育大会  
女子団体 第2位

#### ◆バドミントン部

・第34回近畿国立教育系大学  
バドミントン選手権大会  
女子シニアシングル 優勝  
奥田愛菜(教育学部4回生)  
女子シニアダブルス 第3位  
奥田愛菜(教育学部4回生)  
朝田真琴(教育学部2回生)  
男子ジュニアシングル 第3位  
中尾遼(教育学部1回生)

#### ◆男子ハンドボール

・第47回近畿国立大学体育大会 第2位

#### ◆準硬式野球部

・第47回近畿国立大学体育大会 第3位

#### ◆バレーボール部(男子)

・第47回近畿国立大学体育大会 第3位

#### ◆文化系

・第14回全日本高校・大学生書道展大賞  
北川晴香(大学院2回生)  
豊國恵子(教育学部4回生)  
鈴木聡子(教育学部3回生)  
藤本修弥(教育学部3回生)  
・第59回西宮市展 彫塑部門  
西宮市展賞 山本哲也(大学院2回生)  
・第83回国展 彫刻部  
入選 山下圭介(大学院1回生)  
・第44回関西国展 彫刻部  
関西国画賞 山下圭介(大学院1回生)



山下圭介



山本哲也



藤本修弥



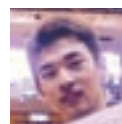
鈴木聡子



豊國恵子



北川晴香



中尾 遼



朝田真琴



奥田愛菜



田中美奈



丸山雅志



樹田健太



福井伸大



近藤俊一郎



山田健介



舟井克也

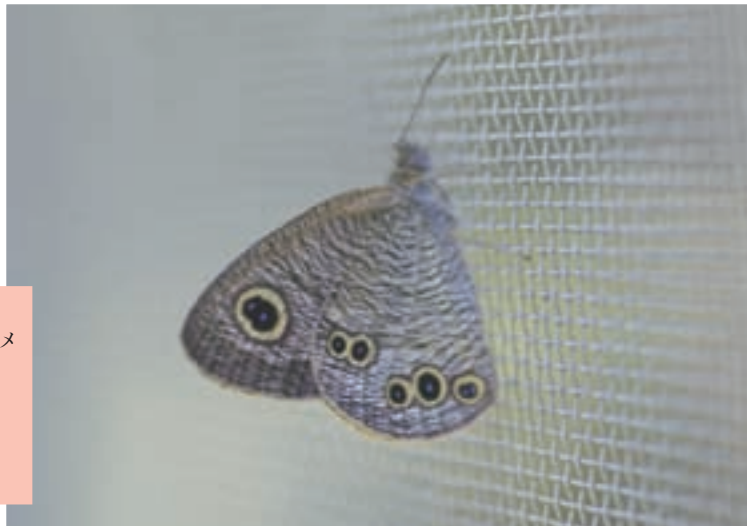


濱本拓朗



# 大学の仲間たち

和名 ヒメウラナミジャノメ  
学名 *Ypthima argus*  
分類 ジャノメチョウ科  
翅開長 30～35mm



## ヒメウラナミジャノメ

翅を広げても30～35cmにしかない小さなチョウである。小型だからシジミチョウの仲間かと思うと、そうではない。小さくても羽に眼状の紋、いわゆる蛇の目(ジャノメ)模様があるので、ジャノメチョウ科の仲間である。この科のものは主に中型であるが、小型のものも2～3種含まれる。この仲間は、羽の地色が褐色や黒色と目立たない色であるばかりか、一般的に日陰を好むので、林内や林縁部の太陽があまり当たらない所を主な活動域にする。従って、この仲間のチョウには、「ジャノメ」のほかに「ヒカゲ」という名をもらっているものもある。実際に花の蜜を吸うのもいるが、カブトムシやクワガタムシ、ハチなどと一緒に樹木の汁、即ち樹液や果物の腐った汁をもっぱら餌にするものも多い。この仲間の幼虫が食べる植物は、イネ科やタケ科、カヤツリグサ科と単子葉植物ばかりで、この点でも地味な印象を与える。しかし、本種は日陰での活動のほか、明るい所にも比較的よく出てきて花の蜜を吸う。本種ではどこでも普通にその姿を見ることができ、ヒメジョオンやタンポポなどに来ているのもよく観察される。幼虫はシバやススキ等を食べて育つ。本種では5月と7月、9月、および10月末の年4回発生しているようである。



自然環境教育センター長  
前田喜四雄

**URL**

<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>



## 奈良教育大学 広報誌

第32号 平成21年10月29日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学  
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL. 0742-27-9104 FAX. 0742-27-9141  
<http://www.nara-edu.ac.jp/>

企画・広報室までご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
お寄せいただいた方の中から抽選で「なっきょんストラップ」を差し上げます。  
【奈良教育大学 企画・広報室】 [kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp](mailto:kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp)



なっきょん's CLUB

スタッフ募集のお知らせ

広報誌づくりなど、広報活動をしてくれる学生広報スタッフを募集しています。  
興味のある方は企画・広報室まで、お気軽にお問い合わせ下さい。